

学び合いの中で、学習した知識や技能を活用する力を育てる 指導の工夫

(3年計画の2年次)

校長 中川 俊也 図

1 研究主題について

本校生徒の課題は、与えられた学習課題に協力して一生懸命に取り組むことができる反面、「主体的に学ぶ」「自ら気づき、考え、発表する」など、「学習したことを活用したり他者の考えを取り入れたりして自己を高めようとする」姿勢に欠けていることである。学び合うという活動を意図的に行い、他者とのかかわりの中でお互いの考えを出し合うことで、新たな考え方、ものの見方、表現方法を身につけさせたい。過去に学習したことを生かしたり、繰り返し活用したりする中で、「学んだことを生かせた」「このように使うことができた」と感じることができると次の学習への意欲が高まるのではないかと考える。そのためにも今年度は、授業のユニバーサルデザイン化をより一層推し進めて、「視覚化・共有化・動作化・焦点化」を意識した授業を実施したい。そして、生徒一人一人が新しい見方や考え方、知識・技能を身につけられるように個に配慮した指導に努めたいと考え、この研究主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 生徒一人一人の個性が活かされ、生徒自身が考え、理解し、表現する授業づくりに取り組む。
- (2) 「わからない」「できない」ときに助けを求めたり、手助けしたりすることができる、学び合い高め合う授業づくりに取り組む。
- (3) 自ら導いた考えが他の意見と違っていても、発表して学級全体の理解の向上につなげようとする気持ちをもった生徒を育てる。

3 研究仮説

- (1) 自分の居場所がある人間関係が構築されると、「わからない」「教えて」という言葉を発しやすくなる。
- (2) 生徒一人一人の特性に応じた授業のユニバーサルデザインにより、生徒の学習意欲が高まる。
- (3) 「音読」「書く」「話す」「聞く」「グループ活動」など、授業中の活動や形態に変化を加えると、生徒の集中力が持続する。
- (4) 学び合いにより、お互いの考えを深めたり新しい見方に気づくことで学力が向上する。
- (5) 学習した知識、技能、経験を生かして課題の解決を図ることができると生徒の学習意欲が高まる。

4 研究内容

- (1) わからないところを素直に周りに伝え、周りが受け入れるという人間関係作りのために、
ア 学級でコミュニケーションビンゴを実施する。
イ 授業の中では、4人グループによる話し合い活動や学び合い活動を実施する。
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを行う。「視覚化・共有化・焦点化・動作化」を行うことで全ての生徒が確かな学力を身につけられる授業を実施する。
- (3) キャリアノートを活用し、3年間の見通しをもったキャリア教育を行う。また、日々の授業を通して、学校で学んでいることが社会では仕事でどう役に立つのかを教え、生徒の学ぶことに対する内発的動機づけを高める。
- (4) 年間計画に学び合いを行う単元・活動を記載し、より良い学び合いができるよう計画的・段階的に指導する。学び合いの基礎となる思考力・判断力・表現力育成のために、全校で毎月「朝音読」に取り組み、音読発表会で音読や感想を発表させる。
- (5) 生徒が過去に学習した知識や技能を活用し、主体的に問題を解決することができる授業づくりを行う。

以上の実践を、実効性あるものとするために、全員が授業公開し、授業技術の向上を目指す。